

キンメダイの資源回復に向けた 種苗生産技術の開発

(予算区分 受託 研究期間 2022 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所伊豆分場 石田孝行 深層水科 倉石祐

【研究の背景とねらい】

- 本県のキンメダイ水揚量は最盛期の 7 千トンから近年は 2 千トン未満に減少しています。また、関東近海のキンメダイ資源は低位・横ばい傾向と評価され、漁業者による自主的な資源管理に加えて資源回復の漁獲圧削減などが提案されています。
- 漁業者からは、資源を回復させる方法の一つとして栽培漁業の実現が求められており、県では第 8 次栽培漁業基本計画でキンメダイを研究対象魚種としました。
- そこでキンメダイ栽培漁業に向けた研究の第一段階として種苗生産技術を開発します。
- これまでのキンメダイの種苗生産に関する研究では、成熟期のキンメダイに麻酔をかけて生かして持ち帰ることにより、様々な実験を行うことができる様になりました。
- 授精水温は 10℃が、その後の卵管理水温は 15℃及び 20℃が、ふ化水温は 20℃が良いことがわかりました。
- また、搾出した卵や卵巣卵をリンガー液で洗浄して授精させることで、より多くの受精卵を得ることができるようになりました。
- さらに、精子の凍結保存が可能となり、雌親魚しか確保できなくても授精が可能となりました。
- そこで、今回は、捕獲したキンメダイ親魚の生残を向上させること及びふ化仔魚の生残を高めることに焦点を当て、研究を進めていきます。



麻酔をかけたキンメダイ捕獲魚



キンメダイふ化仔魚

【期待される効果】

- 栽培漁業の推進によって、積極的な資源回復の取り組みが可能になります。また飼育試験ので得られた知見はキンメダイの初期生態の解明への貢献が期待されます。

【研究計画】

細目課題	内容
1 親魚養成及び人工授精技術の開発	キンメダイの受精卵を安定的に得るため、捕獲魚及び養成親魚の生残を向上させる。
2 種苗生産技術の開発	キンメダイふ化仔魚の飼育環境及び初期餌料について検討する。

(作成 2022 年 4 月)